

# 平成 15 年 6 月期第 1 四半期の連結業績等の概況

平成 14 年 11 月 19 日

会社名 株式会社 フォトニクス

(コード番号:7708)

本社所在地 東京都大田区千鳥三丁目 25 番 5 号

問合せ先 責任者役職名 取締役 COO

氏名 柳田 一千一

TEL 03(5741)1818

## 1. 業 績

(注)百万円未満切捨て

### (1)平成 15 年 6 月期第 1 四半期(平成 14 年 7 月 1 日～平成 14 年 9 月 30 日)の業績

	平成 15 年 6 月期 第 1 四半期 (当四半期)	対前年同 期増減率	平成 14 年 6 月期 第 1 四半期 (前年同四半期)	参 考 前期(通期)
売上高	百万円 336	%	百万円	百万円 1,329
営業利益	170			299
経常利益	191			317

(注)前期は連結第1四半期決算を実施していませんので業績の開示を省略しております。

### (2)部門別の売上高内訳

	平成 15 年 6 月期 第 1 四半期 (当四半期)		対前年同 期増減率 %	平成 14 年 6 月期 第 1 四半期 (前年同四半期)		参 考 前期(通期)	
	金 額	構成比		金 額	構成比	金額	構成比
超精密計測センサ	百万円 149	% 44.3		百万円 %	百万円 868	% 65.3	
光計測装置	50	15.1			67	5.1	
電子機器その他	136	40.6			393	29.6	
合 計	336	100.0			1,329	100.0	

(注)前期は連結第1四半期決算を実施していませんので業績の開示を省略しております。

### (3)主な資産・負債の変動について

項 目	平成 15 年 6 月期 第 1 四半期末	対前期末 増減額	前期末
(資 産)	百万円	百万円	百万円
受取手形及び売掛金	322	160	483
機械及び装置	321	174	146
建設仮勘定	5	211	216

(注)1.当四半期末に係る数値について、公認会計士または監査法人の監査を受けておりません。

2.項目ごとの変動幅が総資産の5%を超えるものについて記載しております。

## 2. 業況の概要

当第1四半期(平成14年7月1日~9月30日の3ヶ月間)における連結売上高は336百万円、連結経常損失は191百万円となりました。

### 1. 業況および企業グループの動向

当第1四半期において、当企業グループは組織と事業を再編成し、事業推進の役割を明確にいたしました。今後は、(株)フォトニクスは事業推進、技術開発、販売を主とし、製造の一部は連結子会社を中心としてまいります。

業況に関しましては、当第1四半期の売上高は伸び悩みましたが、前期より開発を進めてきた12インチウェハー検査装置をはじめとしたシステム製品等の新製品の受注は順調に入り始めております。また、中期計画に基づき推進中の大型案件であるディスプレイ応用製品の開発には、当企業グループを挙げて取組み、第4四半期を目途に市場へ投入する計画であります。この事業は、(株)フォトニクスが事業推進、技術開発を行い、製造を連結子会社で行う当企業グループの新たな事業形態を採っております。当面は、コア部品の販売事業としてスタートし、さらに最終製品のOEM供給を目指してまいります。

また、業績見通しとしては、第3四半期以降、本格的な市場投入を始める製品もあり、通期、連結において計画を達成するために事業を推進しております。

### (各事業の業績活動状況)

#### 超精密計測センサ事業

超精密計測センサ事業は、精密計測機器と半導体製造関連機器、液晶検査装置の開発製造仕入販売を行っております。

##### <精密計測機器及び半導体製造関連機器>

当四半期において、半導体業界には回復の兆しが見えるものの半導体メーカーの設備投資が十分に回復せず、当事業の主要ユーザである半導体製造装置業界の業績は回復しないまま推移したため、半導体製造関連装置の一つである露光装置(ステッパ)向けの出荷は不調に終わりました。

しかしながら、今後需要の拡大が見込める大容量ハードディスク向け流体動圧軸受け(FDB)の生産ラインにおける超精密検査用途としてのセンサが出荷し始めたこと、また、次世代型ステッパである電子線露光(EB)向けのセンサの開発は量産試作に入り、いずれも今後の本格的な市場の立ち上がりを待つ状況にあります。

また、ナノテクノロジー分野における関連技術の開発が急速に進む中、当製品は研究開発用途としての需要があり、ピエゾのアクチュエーター(駆動装置)との組み合わせによるナノレベルの位置決め装置等が出荷し始めております。

##### <液晶検査装置>

当四半期においては、前期から引続き、ユーザの海外展開等、戦略的な事業の再構築の時期と重なり、順調な出荷となりました。この動きは今後も続く見通しであり、当企業グループは顧客の新製品投入計画に合わせ、タイムリーな製品投入を進めてまいります。特に、低温ポリシリコンタイプの液晶検査装置は、携帯電話用小型カラー液晶向けや液晶パネルの超高精彩大型化に伴う検査装置用としての受注により、順調に推移いたしました。また、前期から継続中の次世代対応の検査装置、製造装置等の新製品開発も順調であり、非接触型OLB検査装置、画像処理による点欠陥検査装置開発などを有力ユーザとの共同開発テーマとして進めており、製造装置では液晶パネルの軽量化、広視野化を目的とした技術の確立などを進め

ております。

さらに、ポスト TFT・LCD パネルとして期待されている次世代の有機 EL ディスプレイ分野へは、当企業グループとして参入するための要素技術を確立しており、パターン表示検査装置、プロービング装置、COF 検査装置等を有力ユーザへ納品し始めております。有機 EL ディスプレイは携帯電話、PDA、カーナビ、小型 TV、車載用表示器等用途が広く、今後は、当企業グループの主力商品になるものと期待しております。そのため、台湾及び日本の液晶メーカーの中国大陆への大型移転が続くなか、台湾の有力検査装置メーカーとの業務提携を進め、液晶メーカーに対し、液晶検査装置の販売を働きかけております。

その他の製品開発としては、HDD ヘッドテスターの試作開発が完了し、海外も含めた生産体制の準備に入っております。

#### <長岡下々条工場>

長岡下々条工場は、平成 14 年 7 月にクリーンルームが完成し、12 インチウエハー検査装置等の開発製造を本格的に開始いたしました。

当工場の新設クリーンルームは、12 インチ(300 ミリ)プロセス対応の機種を組立てられる最新鋭の設備であり、クリーン度 100 レベルの水準があります。

12 インチウエハー検査装置の受注は順調であり、第 3 四半期より本格的に出荷する予定であります。

#### 光計測装置事業

光計測装置事業は、国際基準に準拠した MTF 測定装置(光学レンズの評価、検査装置)の開発製造販売を行っております。

当四半期において、MTF 測定装置は光学系メーカーへ赤外用 MTF を出荷する等、MTF 測定装置に対して新たな需要が生まれました。また、高精度のトレーサビリティを持つ MTF 測定装置による国内初の MTF ラボは順調に立ち上がっております。

また、新たな需要として携帯電話用カメラレンズの生産ライン検査装置としての引合いがあり、携帯電話の普及状況からみて十分な市場があると見込めるため、当企業グループとしても積極的な営業展開を図っております。

#### 電子機器その他事業

電子機器その他事業は、国際安全規格対応品である安全対策機器の輸入販売及び超精密塑性加工品の開発製造販売を行っております。また、当期より、動画伝送システムの開発製造販売を開始する予定であります。

当四半期において、安全対策機器の主要ユーザである工作機械、電気機器業界の実装機械等の欧州への輸出は低迷したままであり、出荷は不調に終わりました。輸出以外の国内市場においても、エレベーター・大型医療機器業界への国際安全規格対応品の本格的な出荷が第 2 四半期にずれ込んだため、当事業の業績への寄与度は当四半期においては低いものとなりました。

国際安全規格である世界統一規格 ISO12100 は、わが国においても浸透し始めており、今後は、工作機械等への安全対策機器の普及に弾みがつくものと期待しております。当企業グループは、このような状況を踏まえ、長岡技術科学大学に安全工学の寄附講座を提供しており、安全工学の教育、普及に努めております。また、より多くの企業の現場教育にも役立つため、通信回線を利用した遠隔教育(イー・ラーニング システム)などにより、一般的な教育、普及をも実施しております。

動画伝送システムは、監視カメラ等を遠隔操作することにより、監視地域の動画を一か所で集中管理することが可能な装置であり、広域範囲にわたる災害の発生監視、無人地における防犯用等用途は広く、特に昨今の大規模なテロ、災害等の安全対策システムとして需要が発生しております。

#### <長岡北陽工場>

長岡北陽工場は、超精密塑性加工技術による製品の開発製造販売を行っております。

当工場は携帯電話、携帯端末機器等に使用されるリチウムイオン電池、ニッケル水素電池の金属ケースの開発、製造および超精密金型の製造および製造技術エンジニアリングを中心とした工場として稼働しております。

主要ユーザは国内最大手電池メーカーであり、受注・出荷とも順調に推移しております。また、当事業の「深絞り技術」により、米国へ進出し、有力企業の獲得に成功したため、第3四半期より出荷が始まり、第4四半期より本格的に出荷する見込であります。

また、燃料電池用の金属ケースの開発製造及びレアメタルによる開発製造を視野に入れた事業展開を図っております。

#### (研究開発)

当社は、主たる事業領域である光・ナノテクノロジー分野のセンサ、計測測定技術をベースに研究開発を続けております。

継続中のテーマとしては、超精密計測センサ(PS センサ)をより高度化及びシステム製品化する開発、ピエゾ・アクチュエーターを駆動源とした超精密位置決めステージの開発、ドライブ用アンプ、電源の開発、光通信用の計測機器開発などがあり、ナノテクノロジー分野の研究開発用途向け市場のフロンティアを開拓することを目指しております。

液晶を含む FPD(フラット・パネル・ディスプレイ)では新たな駆動方式、高度な表示機能としての用途開発も進み、これに伴う高度な計測、測定装置、製造装置等の開発依頼が顧客からあり、特に新製品投入が多くなっております。

また、液晶ディスプレイの海外生産向けの設備需要も多くなってきており、海外生産向けではマニュアルタイプの簡易設備を大量に投入した労働集約的な生産形態をとっております。このことにより、メンテナンスフリーの簡易型の設備開発も行っております。

光計測装置では、光学レンズの計測のみならず光通信分野の計測装置の開発にも取り組んでおります。光通信業界は、短期的には大幅に低迷しておりますが、中長期的には伸張してゆく業界であると予想しており、長期的視野に立った開発テーマとして地道な研究をしております。

その他に、次世代半導体製造装置対応の表面形状測定装置、膜厚測定装置の開発、非接触型液晶ガラス検査装置の開発、レーザー描画スキャナーユニット、大容量 HDD ユニット評価装置などを進めてまいりました。

### 3. 当期の見通し(平成 14 年 7 月 1 日～平成 15 年 6 月 30 日)

当企業グループが、今般の低迷した経済状況の中にあっても着実に成長できているのは、光・ナノテクノロジーの固有技術基盤の上に、センサ、計測、測定機器、光学技術(オプトエレクトロニクス)、材料技術分野に幅広い顧客層を持つ強みと、特定分野に依存しない経営基盤があるためと考えております。

当企業グループの経営戦略は、今はまだニッチ市場であっても、近未来に大きな成長をしてゆくであろう

と考えられる分野の製品に使われる部品、材料、製造技術、加工ノウハウなどに焦点を当て自社の固有技術との融合を図ることにより、果敢に挑戦をしていくことであります。

一方で、当企業グループは個々の事業領域では専門分野に特化集中する経営スタイルを採用しておりますが、固有技術基盤の裾野が広がってきたことから、今後に備え、当企業グループとは異なる事業分野において最先端技術を有する企業と戦略的アライアンスを組んでゆくことによりダイナミックな展開をすることも視野に入れております。

当期においては、長岡下々条工場の立上げにより、12 インチウエハー検査装置等が本格稼働し始めております。

また、ナノテクノロジー分野においては、国の研究予算が文部科学省関連だけでも大幅な増額となっており、当企業グループに対しても大学・研究機関などからの引合いがあり、今後に期待しております。

以上により、当期の見通しにつきましては、第1四半期の業況は伸び悩んだものの、第2四半期以降の受注見通しが明るいことから、前年通期を大幅に上回る見込みであります。そのため、発表済の当期見通しに関する変更はございません。

(参考) 当期見通し

(単位: 百万円)

期別 \ 項目	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	1株当たり 配当金
平成15年6月期	2,600	365	245	6,611 円 61 銭	

(注) 1株当たり当期純利益につきましては、期末予想発行済株式総数で算出しております。

#### 4. その他

特に該当事項はございません。

(参考) (株)フォトニクス第1四半期業績

(単位: 百万円)

期別 \ 項目	売上高	経常損失	当期純損失	1株当たり 当期純損失
平成15年6月期 第1四半期	228	145	203	5,492 円 93 銭